

「日本ペストロジー学会 司会者としての回想」

高橋 良一

まずは、素晴らしい進行表を作成して下さった事務局三角さんに感謝いたします。

あの進行表のおかげで、ものすごく気が楽になりました。

理事会で、「誰が司会やるの」と聞いてしまったために、「じゃあ高橋さんやって」となってしまうりましたが、ハイと答えてから少し後悔していました。

宴会の司会や仲間内の会議司会は何度か経験がありましたが、ステージ上での司会は初めての経験でした。

年に数回風邪ひくことがあり、学会本番前に風邪だけはひかないように注意していましたが、無事風邪は引かずに本番を迎えることが出来ました。

また過去男性が司会を務めることがなかったと聞きましたが、私でよかったのでしょうか。見た目はよくないし、・・・

なんだかんだ言いながらも、当日は楽しく司会をさせていただきました。

ほかの担当に比べれば、体力的に楽でした。

ああすれば良かったこうすれば良かったと反省することはありましたが、口から出した言葉は戻せないし、総じて楽しい時間でした。



受付班 金子 智宏

ペストロジー学会神奈川大会の受付を担当しました株式会社FHSの金子です。

神奈川での大会は17年ぶりと言う事で前回の大会には私は携わっていませんでしたので、今大会が初のお手伝いでした。

日本全国から業界関係者の方々が神奈川県へ来られると言う事でどの様な大会になるのだろうと少し不安はありましたが、諸先輩方にお聞きしながら準備を進めて行きました。

受付と言う大会の窓口で多少の不安が残りながらも当日を迎えスムーズに受付が進む様に五十音順に分け各担当場所を決めましたが、時間になると列をなして受付にお待たせするような状態でしたが受付担当の皆さんと事務局の助けを借り何とか参加者数411名の名札を渡す事が出来ました。



忘れ物も数点受付に届き、忘れ物対応を想定していなかったので次回には忘れ物についても準備をしておいた方が良かったかと教訓も得られました。

アンケートの中では挨拶に対してのご指摘もあり、改善点として次回の神奈川大会に役立てたいと思います。

神奈川協会関係者の皆様、ご協力有難う御座いました。

大変勉強になりました。

第39回日本ペストロジー学会神奈川大会におきまして、進行班として末席に加わらせて頂きました。

進行班というものは、ご存じの方も多いかと思いますが改めてご説明しますと、会場で演者の皆様が発言をなさっているときに時間が残りどれくらい残されているかをベルで知らせたり、控えの演者の方が滞りなく待機しているかなどの確認といった具合に、発表会の場をトラブルなく進行させるのが仕事となります。

学会の発表の場には、演者の方・演者の方々を取りまとめる議長の方・そしてそれを拝聴するお客様・更には議題が終わった後に講義内容についてご質問をなさる方がいらっしゃいます。

そして議題の内容や話の面白さから知的な熱狂が会場に湧きおこって、演者の方・議長の方・聴衆の方・質問する方を含めてヒートアップしていき時間を大きくオーバーすることが珍しくありません。

こういった熱く盛り上がった議場にベルを鳴らし、時間の押し迫りをお伝えするのが私たち進行班の仕事となります。

ある意味、折角盛り上がった場に冷や水を浴びせてしまう形になるので、たいへん心苦しいものがあります。

さらには演者様の中には、チャイムを鳴らすたびにこちらの方をにらむ方もいらっしゃいます。

折角の発表の機会。そして知識や経験の交換といった夢のような時間。これらをこちらが引き取りおろしてしまうわけですからお怒りやご不満はごもっともではあります。

しかし、こちらも円滑な進行が何よりも大事。

時間を超過するといった事態は絶対に避けなければなりません。

もしもそのような時間を守ることもなく会が進行してしまったり、会場を借り切る時間をオーバーした挙句、最後の方の議題や演目は発表することもできずに潰れてしまうことになってしまうかもしれません。

このような事態を絶対に避けるべく、ストップウォッチを見ながら非情のベルを鳴らしていきます。

ある意味嫌われ仕事と思われがちですが、私たち進行の仕事は大会運営に欠かせないものであることが少しでもわかっていただければと切に思います。

今回は群馬大会とのことですが、進行の役を務める方には、大会を引っ張っていくのは自分たち進行だという強い使命感を持って、強く大きくベルを鳴らしていただければと願っています。



会場班

会場班 班長 重岡 雅也

学会の盛会を目標に、これまでの一年間準備に真剣に取り組みました。選出された実行委員のメンバーの責任感は非常に大きいものだったと思います。そして私に与えられた使命は会場班の責任者、主に会場の設営です。会期中は、緊張感が常に張りつめておりましたが、終盤は、少し余裕の表情も。



全員が個々の力を出し切った結果、ほぼノーマスで素晴らしいものでした。これは、常日頃

から理事、各委員、そして会員さんが協会業務に積極的に参加していただけることで、全員の距離が近いところにあったからだと思います。下見や打ち合わせがスムーズに進められたのも、学会を神奈川で開催するんだ、運営次第で全てが決まるんだ！と全員強い気持ちを持っていました。これにつきます。

閉会以来、他の協会員さんとお会いする機会もあり、皆さんの感想も非常に良いものでした。大きなイベントがこのように盛会に終わられたこと、本当にうれしく思います。全員最高の裏方です。神奈川協会から発信することがPCO業界の更なる発展につながれば幸いです。

展示会場班

展示班 班長 中丸 裕嗣

第39回日本ペストロジー学会神奈川大会の展示班責任者を担当いたしました。

展示班の役割はブースの設置、搬入搬出、展示ブース・控え室の管理等でした。搬入と搬出については展示会場が6階と言うこともあり、車両での荷物の積み下ろし場所やエレベーター内の養生等の確認も含めて不安が多々ありましたが、事前にそういったことも含めた打合会を実施したことが良かったです。本番当日はトラブルに関しては一切ありませんでした。



展示会場設営に関しても展示班担当だけでは人手が足りず、他の委員の方々も応援に来て頂いたおかげで会場の設営及原状復帰についてもあっという間に終わることができました。この場を借りて感謝申し上げます。



第39回日本ペストロジー学会神奈川大会の総合案内班は総務委員会と協会会員の力添えを頂き、11月8日事前準備・11月9日・10日の誘導案内を行った。

みなとみらい線日本大通り駅改札前の担当者・出口4番担当者・各交差点担当者・産業貿易センター担当者・県民ホール担当者と役割分担を行なった。今回は大会会場と展示会場・若手懇談会会場・評議委員会会場が離れていた為、誘導する配置も増え大変だったが問題なく班員はこなしてくれた。9日の大会が終了し本日最後の任務、懇親会会場のホテルニューグランドへの移動も無事に完了し美味しい食事を頂きながら明日の段取りを班員と行なった！ 10日最終日、班員の顔には疲れが見えたが13時からの展示班の応援等を行い、大会の任務を終える事ができました。皆さんお疲れ様でした、そして有難うございました。

ベストロジ学会神奈川県大会の開催に先立ち、実行委員会が立ち上げられ、その中でも異色である宴会担当に抜擢され、かなりのプレッシャーでした。まず、懇親会の司会という大役ですが、今まで参加した大会では、プロの司会者が懇親会の司会を行っているのを、幾度となく見てきました。

『なのに、なのに俺が司会やるなんて!!!』

まあ270名以上の懇親会の司会などやったことあるはずもなく、未知の領域ではありましたが、毎年総会の懇親会の司会を仰せつかっていたこともあり、なんとか無事にやり遂げることができました。

しかし、これは学校で言う「時間割」的な側面を持っている部分であったのとは対照的に、懇親会後の二次会は、まさに修学旅行などの「課外授業」的な要素があり、全国から集まっていた方たちの、サポートもしなければなりません。

なぜならば、会場近くの街には多くの飲み屋があり、その中にはボッタクリ店も多く、間違っ呼び込みに連れて行かれると、法外な金額を請求され、折角の横浜の夜を台無しにしてしまう可能性があるからです。そこで、宴会担当の3人(僕以外のメンバーは秘密ですw)は、数ヶ月前から街を調査し、15店舗以上の飲み屋と交渉し、安心、安全、安価に飲める店舗のリストをネット上にアップ、手軽に検索できるサイトの構築も行いました。この交渉のために〇十万円もの身銭を切ったのですが、皆さんの役に立ったのかどうか……。

当日は、各店舗を回ってトラブルがないか、入れなくて困っている方はいないか等、パトロールを深夜0時ころまで行っていました。一部の店舗さんからは、「お客さん一人も来ないけど!」と言われながらも、なんとかトラブルもなく、無事にやり遂げることができ、完全に燃え尽きることができました。

事務局、実行委員会のみなさん、スタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした!

本当にくたくたになった学会でしたが、神奈川PCOの団結力を、全国に知らしめることができたのではないのでしょうか?

学会に参加者の皆様も、本当にありがとうございました!

またどこかでお目にかかりましょう。

